



森林やまがた

No.166

2016.11

山形県森林協会は、「美しい森林づくり推進国民運動」を推進しています。



目次

第26回山形県林業まつり……………2
 やまがた美しい森林づくり推進大会開催……………3
 「やまがた森林ノミクス」の推進について……………4
 「みどりの循環」体験イベントを開催しました…5
 森づくりの輪をひろげよう
 ～村山地域森の感謝祭の開催～……………6
 元気な緑の少年団
 ～村山地域交流研修会の開催……………6
 発展する家づくりネットワークBDAC山形…7
 村山総合支庁「木育の取組み」……………7
 みどりのページ
 郷土の名木・古木等保全事業の実施について…8
 平成28年度の緑化功労者の表彰が行われました……………8

フォレスト通信
 「育てる林業」、「使う林業」スタンスは50:50で…10
 普及情報
 山形県青年林業士活動推進事業について……………11
 森の人紹介
 舟山政男さん・金子崇さん・清野友和さん……………12
 「もがみ薪ステーション」の取組みについて……………13
 「第11回東日本チェーンソーアート競技大会」を開催…14
 「おきたま森の感謝祭2016」を開催……………14
 「おきたま森の恵み起業塾」の取組み……………15
 バイオマス資源熱熱利用実証事業について……………16
 温海町森林組合「人工林の若返り」に向けた取組み…17
 「森づくりセミナー&活動報告会」……………18
 丸太価格・製材品価格の推移……………18

第26回山形県林業まつり 今年も大盛況でした!

県民の皆様には森林の働きや木材の良さ、森の恵みのすばらしさを実感し、体験していただくため、第二十六回「山形県林業まつり」が、十月二十二・二十三日の二日間、天童市の山形県総合運動公園駐車場内特設会場において開催されました。

今年も「山形県農林水産祭」として「山形県林業まつり」緑と水と木の祭典」と「秋の食彩まつり」が同時に開催され、各ブースでは県産木製品や県産きのこの展示販売のほか、子どもから大人まで参加できる楽しいイベントが行われました。



今年も、肌寒い気温となりましたが、二日間とも天気は大きく崩れず、来場者数は三万九千人と大盛況とな

りました。

二十二日正午から、「農林水産祭合同オープニングセレモニー」として細谷副知事による開会宣言や主催者らによる丸太カットが行われました。その後、村山産業高校又新連の若々しく力強い「徳内ばやし」や、今年度初めて参加してくれた星幼稚園のかわいらしい子どもたちによる和太鼓演奏が行われ、会場を大いに盛り上げてくれました。



「星幼稚園」の和太鼓演奏

さらに、「NPOやまがたの木・住環境共生ネットワーク」による上棟式と祝餅まきには多くの来場者が集まり、にぎわいをみせていました。

また、恒例の丸太切り競争、幼児積み木競争や子ども青空木工教室において、たくさん子どもたちが楽し

そうに木と触れ合う光景が見られ、多くの方々に木の持つ温もりを感じてもらえることができました。



「上棟式 祝餅まき」

木造建築のブースでは、県産木材を使用した迫力のある住宅構造躯体が多数展示され、来場者の皆様に直接見て触れていただくことで、木のある暮らしの良さを身近に感じてもらえました。

その他にも、「やまがた森林ノミクス」などのパネル展示や、旬のきのこを使ったおいしい山形の食品販売、木工クラフトやきのこ植菌体験など、県産木材をはじめとする「森の恵み」を実感していただける機会になりました。

二日目のステージでは、東根市よ

さこいグループ「いでは組」の踊りが披露されました。また、宮城三女OG合唱団にも出演していただきました。震災から五年、これまでたくさんの方々には笑顔を送り届けた歌声が会場で披露され、来場者の皆さんに楽しんでいただきました。



「宮城三女OG合唱団」

今年で二十六回目の開催となった林業まつりは、毎回多くの方々においでいただける県内有数のイベントとして定着してきました。今後とも、県民の皆様には森林・林業・木材産業の重要性についてご理解いただくとともに、木材の良さと森の恵みを実感していただけるよう、関係者の皆様と運営してまいりますので、皆さまの御協力をよろしく願います。

〔県林業振興課〕

やまがた美しい森林づくり推進大会開催

(第63回山形県林材業年次大会)



十月二十二日(土)、山形県総合運動公園において「やまがた美しい森林づくり推進大会」(第六十三回山形県林材業年次大会)が、約二〇〇名の参加者を得て開催されました。

◆大会

高橋大会副会長の開会の言葉で始まり、細野大会会長の主催者挨拶、各林業団体から寄せられた多くの要望・提案事項の主旨説明、大会決議の提案と進められました。

提案事項については、阿部大会副会長からその概要について一括して説明があり、満場一致で原案どおり承認されました。

また、安部大会副会長が大会決議を提案し、提案への取組み、予算確保要請について満場一致で決議されました。

続いて、細谷副知事(山形県知事代理)、関口造林間伐対策室長(林野庁長官代理)、鈴木憲和衆議院議員、大沼みずほ参議院議員、野川県議会議長から祝辞があり、盛会裏に終了しました。

◆提案事項

多くの林業団体から提案された森林・林業・木材産業全般に亘る諸課題から、重点課題を取上げた内容となっており、次のとおりです。

一 「やまがた森林ノミクス」の推進

地域の森林資源を活用する「やまがた森林ノミクス」を推進し、豊かで活力ある地域社会を構築するため、県民全体で森林ノミクスを推進する条例の制定を期待するとともに、次の提案がありました。

(一)森林境界の明確化、森林施業の集約化、高性能林業機械の導入、林道・作業道などの路網整備を早急かつ計画的に推進するとともに、再造林に

対する安定定な予算を確保し、緑の循環システムを構築すること。(二)

地域林業の担い手である森林組合や林業事業者等の育成強化を図るとともに、県立農林大学校での新たな担い手の育成や、緑の雇用事業等を活用した現場技能者の育成を積極的かつ計画的に進めること。(三)木材の加工・流通を担う木材産業の育成強化を図るとともに、県産木材の需要を拡大するため、公共建築物や東京オリンピック・パラリンピック関連施設等への木材利用や、県産木材認証制度を活用した「総合的な住宅対策」の拡充等による民間施設への木材利用を促進すること。(四)木材加工流通施設、木質バイオマスエネルギー供給施設等整備への支援を強化するとともに、特用林産物の生産振興策を強化し、山村地域の活性化を図ること。(五)これらの取組みを総合的に推進するため、「次世代林業基盤づくり交付金」や「やまがた森林ノミクス関連予算」等の拡充・強化を図ること。

二 災害に強い多様な健全な森林づくりの推進

森林の持つ多面的機能を持続的に発揮させ、地球温暖化の防止と安全で快適な県土づくりを進めるため、

次の提案がありました。

(一)地球温暖化の防止に向け、間伐等の森林吸収源対策を着実に推進するための安定的、恒久的な財源を確保すること。(二)頻発している集中豪雨や台風、地震等による山地災害から、県民の生活と暮らしを守るため、治山・林道・造林事業等による災害に強い健全な森林づくりを、計画的かつ積極的に推進すること。(三)「やまがた緑環境税」制度を継続し、荒廃森林の整備等を計画的に進めるとともに、企業等の社会貢献活動や県民参加の森づくりを一層推進すること。(四)森林の公益的機能を確保するため、保安林の計画的配備や林業公社等による森林整備を促進するとともに、松くい虫やナラ枯れ被害を防止するための森林病害虫対策をより一層推進すること。(五)森林資源の循環利用や健全な森林づくりを促進するため、低コスト森林施業技術や森林環境の維持管理技術、木材・特用林産物の生産利用技術等の開発・普及を促進すること。

◆おわりに

本大会で採択された提案事項については、国・県等に提案・要望してまいります。

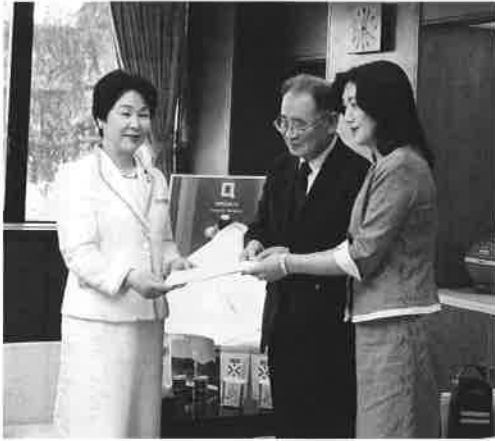
〔山形県森林協会〕

「やまがた森林ノミクス」の推進について

◆森林ノミクス推進懇話会報告書

県では「やまがた森林ノミクス」の推進方策について幅広くご意見を伺うため、平成二十八年三月に「やまがた森林ノミクス推進懇話会」を設置し、懇話会を四回開催しました。懇話会では「やまがた森林ノミクス」を推進するための条例の内容もご議論いただきました。

懇話会の議論結果をまとめた報告書が、九月十四日に懇話会の柴田洋雄会長から古村知事に手渡されました。



懇話会の報告書では、「収益性の高い林業経営の推進」「森林境界の明確

化等の推進」「森林認証の取得促進」

「流通拠点・体制の整備」「木を連想させる山形らしさの浸透」など、林業や木材産業関係に限らない幅広いご意見やご提言をいただきました。懇話会報告書は県のホームページでご覧になれます。

◆条例の制定に向けた取り組み

報告書などの内容をふまえて、県では「やまがた森林ノミクス」を推進するための条例を県議会に提案するための作業を進めています。(十月一日から十月三十日までパブリック・コメントを実施)

この条例は、本県の豊かな森林資源について、県民総参加による活用を推進し、林業及び木材産業の振興と森林の保全を図り、雇用を創出し、地域を活性化することを目的とし、「再造林の推進」「県産木材の率先利用」「人材の育成」「林工連携等の推進」「特産林産物の振興」について規定し、山形らしい条例とすることを目指しています。

◆森林整備長期計画の改定

「やまがた森林ノミクス」宣言、大型集材工場や木質バイオマス発

電施設の整備など、昨今の森林・林業・木材産業を巡る情勢が変化していることから、平成二十三年三月に策定された『第二次山形県森林整備長期計画』を改定することとしました。七月十四日に山形県森林審議会に諮問し、今後、平成二十九年一月に答申をいただき、年度内に改定するスケジュールを進めています。

条例の制定作業と並行して作業を進め、森林・林業・木材産業に関する施策を計画的かつ具体的に推進できるとする計画に改定したいと考えています。

◆二十八年度全国知事会優秀政策

県内の豊かな森林資源を「森のエネルギー」「森の恵み」として活かし、林業振興、雇用創出を図り、地域の活性化につなげていく「やまがた森林ノミクス」の取組みは全国的にも認知・評価され始めています。

全国知事会では毎年、先進政策バンクに登録されている政策の中から優秀政策を決定しています。今年度、本県が推進する「やまがた森林ノミクス」が、約三、四〇〇の政策の中から林業関係で唯一選出され、九月六日に東京で表彰式が行われました。これを契機として、本県が「森林ノミクス」政策を先導するように更に

施策を充実し、周知を図っていきます。

◆全国森林ノミクスサミット

「やまがた森林ノミクス」の取組みを県内外に情報発信していくため、平成二十八年十一月二十一日(月)、「第二回全国森林ノミクスサミット in 山形」を山形市で開催いたします。内容の詳細や申込方法は県林業振興課のホームページをご覧ください。
(<http://www.pref.yamagata.jp/>)
多くの方のご来場をお待ちいたします。

「第2回全国森林ノミクスサミット in 山形」

- 開会(13:00)
- 第1部 講演(13:15~14:30)
テーマ「森林資源の活用による地域再生～森ではたらく！新たな事例～」
講師：古川 大輔 氏(古川ちいきの総合研究所代表取締役)
- 第2部 パネルディスカッション(14:45~16:30)
テーマ「豊かな森林資源を活用した地域の活性化」
コーディネーター：三浦 秀一 氏(東北芸術工科大学教授)
アドバイザー：古川 大輔 氏
パネリスト：阿部多喜子 氏(金山町森林組合職員)
瀬野 和広 氏(瀬野和広+設計アトリエ代表)
西塚 直臣 氏(天童木工常務取締役)
宮澤 俊輔 氏(林野庁林政部木材産業課長)
ルイジ・フィノキア-ロ 氏(オーストリア大使館上席商務官)

〔県林業振興課〕

やまがた緑環境税活用事業

「みどりの循環」体験イベントを開催しました

県では、昨年度から県民の皆様が「森を守り、育て、暮らしに活かす『みどりの循環』を気軽に体験できるイベントを開催しています。

今回は、これまで開催したご家庭などで竹のポットで育てたどんぐりの苗木を森に返す「森のホームステイ」、森を育てる「間伐体験会」、やまがたの木を暮らしに活かす「木工体験会」を紹介します。

◆森に返す「森のホームステイ」

やまがた森の感謝祭や林業まつりなど様々なイベントに参加いただき、竹ポットにどんぐりを植え、ご家庭で苗木を育てていただいた皆様を「イオンの森植樹祭」と「山形県トラックの森植樹会」にご案内しました。



イオンの森、山形県トラックの森で、家庭で竹のポットで育てた苗木を植樹

「イオンの森植樹祭」は、九月二十五日（日）、飯豊町「源流の森」

周辺でイオングループの主催で開催されました。イオン関係者や一般参加者約百五十名が、ブナ、コナラ、クヌギなど約四百二十本を植樹しました。このうちブナ、コナラ約八十本が森のホームステイで育てた苗木でした。



山形県トラックの森植樹会の様子
約500人が参加しました

「山形県トラックの森植樹会」は、十月十六日（日）、山辺町「県民の森」周辺で（公社）山形県トラック協会の主催で開催されました。協会関係者や一般参加者約五百名がブナ、コナラ、クヌギなど約五百本を植樹しました。このうち、ミズナラや

コナラ約百本が森のホームステイで育てた苗木でした。

「イオンの森植樹祭」と「山形県トラックの森植樹会」は、両日とも秋晴れとなり、森のホームステイの参加者は、自分の育てた苗木が大きく育つことを願い植樹しました。

◆森を育てる「間伐体験会」

十月十五日（土）、山形市八森の杉林で開催しました。一般参加者三十二名が参加し、講師から森の手入れの話を聞いた後、チェーンソーでの伐採を見学しました。その後林の中に入り、のこぎりで枝打ちや除伐、玉切りなどを体験しました。約二時間の作業でしたが、うっそうとしたスギ林が、光が差し込む明るい林に変わりました。体験会で伐採した木は、十一月六日（日）に開催する二回目の間伐体験会で、ペレット工場に運搬し原料として利用します。



スギ林で枝打ちや伐採を体験



県産スギを使った木工体験

◆木を暮らしに活かす「木工体験会」

祝日の九月二十二日（木）に、天童市「天童高原」で開催しました。モンテディオ山形サッカースクール生や一般参加者の親子四十八名が参加し、木工や森のホームステイの竹ポット苗づくりなどを体験しました。木工体験では、親子で県産スギを使った小物入れを作りました。皆さん木のやわらかい温もりを感じながら楽しいひと時を過ごしました。

◆イベントのお知らせ

○やまがた環境展2016

期日：十一月十九日（土）

二十日（日）

場所：山形ビッグウイング
家庭でどんぐりを育てる「森のホームステイ」や木を暮らしに活かす「木工体験会」を実施します。
ぜひ参加ください。

〔県みどり自然課〕

森づくりの輪をひろげよう

村山地域森の感謝祭の開催

九月二十四日(土)、大江町「大山自然公園」で、村山地域の緑豊かな自然の恩恵に感謝し、森を守り・育てることの重要性を広く訴え、住民参加による森づくりを推進することを目的に、平成二十八年度村山地域森の感謝祭を三百人の参加を得て、開催しました。

式典では、大江町スポーツクラブのキッズダンスチームSMILE(スマイズ)が元気なパフォーマンスを披露し、感謝祭のスタートを盛り上げました。

引き続き、村山地域森林・林業功勞者表彰では、地元大江町の苗木生産者の大沼健藏氏と関山愛林公益会で長年事務局長・役員を歴任された清野富治氏(東根市)が、村山管内の森林林業の振興に尽されてきたことを讃えられました。

その後、緑の少年団による緑の誓い、森づくりリレー旗の引継ぎ、主催・来賓者による代表者「薪割」に続き、森づくり活動として、参加者全員で散策路に間伐材のチップを敷いて木使いをアピールしました。参



加した緑の少年団の子ども達は「歩くとフカフカして気持ちいい」木の香りがすごい」などと喜んでいました。

その他、大江町のPRとして、特設ブースを設け、「大江町型住宅のパネル展示」や「山形地鶏」「すもの新品種サンルージュ」の大試食会を開催し、会場内は賑わっていました。

〔村山総合支庁森林整備課〕

元気な緑の少年団

村山地域交流研修会の開催

森林体験学習を通して、団員同士の交流と連帯を深めながら、緑を大切にする少年・少女を育成するため、交流研修会を毎年開催しています。

村山地域の交流研修会は例年二回あり、第一回は、七月二十八日に山形市少年自然の家で開催しました。

自然豊かなフィールドを舞台に、クイズに挑戦しながら樹木の特徴を観察し、自分で採取した葉っぱを絵の具でプリントするマイバック作りを楽しみました。

第二回は、九月二十四日に大江町大山自然公園で森の感謝祭と併催で開催しました。散策路のチップ敷きでは、少年団の頑張りで予定時間よ



り早く終わることが出来ました。また、色や形の違う葉っぱや木の実を集めたり、ヒントを頼りに樹木を探す活動では、多種多様な森の木々について学びました。

延べ十一回、約二百名の少年団員は、活動を通して、楽しみながら自然や森林に親しみ、他の学校の団員との交流を深めました。

〔村山総合支庁森林整備課〕

発展する家づくり ネットワーク

B D A C 山形

ビードラック

◆BDAC山形について

「BDAC（ビードラック）山形」は、地域の豊富な森林資源を活用した家づくりに取組みながら、循環型社会の構築を目指し、平成二十三年四月から活動を開始しています。

平成二十六年度からは、県が進めている林業の振興と地域の活性化を目指す「やまがた森林ノミクス」に賛同し、村山管内の重要課題として位置付けられている西山杉を活用する住宅振興を進めています。

さらに今年度からは、川上から川下まで、地域の森林所有者・製材所・建築家・工務店で構成するトータルハウジンググループを形成して新たな活動を開始しました。

◆今年度の活動について

「顔の見えるやまがたの木で家づくり推進事業」の支援を受け、五月には、さくらんぼテレビの「家づくり大辞典」で、新しい土間と床座生活の家を紹介しました。続いて八月には、山形職業能力開発訓練校を会場に、瀬野和広氏（※）を講師に迎え、「地域材を活用する家づくり」と題して講演会を開催しています。会

場には、一般県民のほか訓練校の学生の姿もあり、BDAC山形の活動や地域材を活用した住宅について、幅広い世代に普及することができました。

◆今後に向けて

今後も豊富な県産材を活用した地産地消による、世代循環型「森と社会」づくりを目指し、新たなメンバーと共に活動を広げていく予定です。

〔村山総合支庁森林整備課〕

※瀬野和広氏

テレビ番組の「大改造!! 劇的ビフォーアフター大賞」を平成二十四、二十七年に受賞している村山市出身の建築家。県の「やまがたの木利用拡大戦略プロジェクト会議」の委員。



BDACは
Builder Design Architect &
Clientsの頭文字の略称です。

村山総合支庁の「木育の取組み」

住宅の木造建築や木製の生活用品が少なくなっているなど、県民生活の木離れが進んでいるなか、全国的に木育が広がりを見せています。村山総合支庁では、今後の本格的な木育推進を見据えて、県民の森での研修や「森のようちえん」等への職員

◆職員出前講座「べにつこひろば」

九月十日（土）NPO法人やまがた育児サークルランドの依頼で、山形市べにつこひろばで、「自然木のえんぴつ作り」を開催しました。三十名の親子が参加、サクラ、ケヤキ、タムシバのえんぴつを作りました。

参加者からは「タムシバは削ると良い香りがする」や「サクラは艶があってすてき」など、樹種ごとに違う特徴を気に入ってもらえました。

◆木育プログラムについて

木育とは、身近に木に触れる体験を通して、木の良さや木を使うことの大切さを学ぶもので、生活や遊びに使う木の道具を「自ら作り使用する」コンセプトで実施しています。材料はすべて県産の木です。

◆森の案内人育成研修

十月二日（日）開催の県民の森・森の案内人専門研修では、「やってみよう木育」をテーマに、木育概論の講義と自然木のカスタネット、えんぴつ、県産ヒノキのマイ箸づくりを実習しました。カスタネットは自然木のサクラの木を使い、県民の森にある立木のサクラと比べながら、樹

◆まとめ

木育の普及が、地域森林資源の有効利用と森林ノミクスの推進につながることを期待します。

テーマに取り組みました。



〔村山総合支庁森林整備課〕



みどりのページ

郷土の名木・古木等
保全事業の実施に
ついで

公益財団法人山形県みどり推進機構では、県民共通の財産である名木や古木を保全する取組みとして、今年度から新たに「郷土の名木・古木等保全事業」を制定しました。

この事業は、県または市町村の指定を受けた天然記念物の樹木を対象に、樹木医の診断、指導のもと樹勢回復作業や保全措置を行っていくもので、八月に開催された選考委員会において今年度実施する五件の樹木が決定しました。

このうち、鶴岡市にある「金峯山の大フジ」の樹勢回復作業が九月下旬に行われましたので、その概要を報告いたします。

金峯山の大フジは、昭和三十七年に県の指定を受けた天然記念物で、推定樹齢は約四百五十年、高さ約三十メートルのフジの大木です。すぐ脇に立っているスギの木によじ登るように巻き付き、スギと共生しながら生育していますが、根元付近の幹が腐朽して空洞化が進行しています。また、かつては遠く離れたところからでも認識できるほど咲き誇って

平成28年度 郷土の名木・古木等保全事業 交付決定一覧表

所在地	名木・古木等の名称	樹種	採択額(千円)
山形市	平泉寺の桜	ベニシダレザクラ シダレザクラ	500
山形市	松尾山のヒガンザクラ	エドヒガン	480
朝日町	豊龍神社の大スギ	スギ	500
鶴岡市	金峯山の大フジ	フジ	500
鶴岡市	木野俣熊野神社巨木群	スギ、モミなど	324
合計			2,304

いた花の数が減少し、今では頂部にしか花を咲かせない状況になっています。

このため、本事業の採択を受け、庄内地区に在住の樹木医である砂山隆司氏と五十嵐光雄氏の診断、指導のもと、新根の発生を促すための土壌改良や開花に必要な栄養分の補給のほか、日照を阻害している周辺樹木の剪定などを行いました。

これだけの古木ですので、効果が現れるまでには時間がかかるかもしれませんが、以前のように綺麗な花

をたくさん咲かせてくれることを期待しながら、末永く見守っていきたいと思います。



エアースコップを使った土壌改良作業



ロープワークによる剪定作業

平成二十八年度の緑化功労者の表彰が行われました

◆期日 平成二十八年九月二十九日
◆場所 秋田市 第一会館本館

平成二十八年度東北・北海道地区緑化推進協議会総会において緑化功労者の表彰式が行われ、山形県からは大蔵棚田さくら公園設置管理運営委員会が表彰されました。

当会は、山辺町大蔵地区の棚田に隣接する山林を桜の公園として整備し、地区民の憩いの場となるばかりか、ここに訪れる人たちに安らぎを与えられるような公園となるよう管理運営を目的として設立され、地道な活動を継続しています。



さくら公園の管理作業の様子



東北・北海道地区緑化推進協議会
平成28年度 表彰式

みどりのページ

〔公財〕山形県みどり

推進機構



受賞した大蔵地区の皆さん

平成十七年度から平成二十一年度にかけては主に桜苗木の植樹を行って公園を整備し、平成二十二年度からは消毒や下草刈りなどの維持管理作業を中心として行っていますが、昨年度からはヒガンバナの植栽にも新たに取組み、より一層公園の魅力を高める活動を行っています。

当地域は、過疎化や高齢化などの課題を抱えている山間集落ですが、さくら公園の整備と管理作業を通じて地域コミュニティの活性化にも大きく寄与しており、その功績が高く評価されました。

当会の功績に敬意を表するとともに、引き続きの活躍をご祈念申し上げます。

緑の募金に御協力いただいた企業・団体のみなさま (H28. 8. 1~9. 30)

〔山形県みどり推進機構取扱い分〕

(株)アーレスティ山形、アイ・エム・マムロ(株)、(有)青木建材、(株)青葉堂印刷、旭自動車(株)、アジア航測(株)山形営業所、芦野工業(株)、(株)安部組、(有)荒井材木店、有賀建設(株)、五十嵐工業(株)、(株)伊藤造園土木、(株)伊藤熱処理、(有)伊東農園、(有)入野商会、(有)羽越グリーンサービス、(株)エイアンドシー、(有)エコファーム長井、エムテックスマツムラ(株)、M木工、(有)遠藤建機、(株)オオバ、岡崎医療(株)、尾形興業(有)、(株)小川建設、(株)カキザキ、(株)柿崎工務所、笠原建設工業(株)、(株)春日測量設計、勝川建設(株)、(株)金沢総合コンサルタンツ、(株)カルイ、北日本オイル(株)、北日本特殊イサベラ建設(株)、工藤石油店、(株)工藤測量設計、(株)グリーンラボ、(有)後藤クリーン商会、(株)後藤材木店、(有)後藤竹材店、コマツ山形(株)、(株)コヤマ、斎藤建設(株)、(株)斎藤板金工業所、(株)ザオー測量設計、(株)寒河江技術コンサルタント、(株)鮭川工業、(株)佐藤組、(株)佐藤工務、(有)山栄測量設計、(有)三幸園、(株)三和、(株)三和技術コンサルタント、三和油脂(株)、J A全農北日本くみあい飼料(株)、(株)シェルター、(株)十字電子、(有)ジョイランチ、(有)庄司林業、庄内赤川土地改良区、(株)庄内測量設計舎、白岩土木建築(株)、(株)新庄工務所、新和設計(株)、(株)菅野測量設計、須川工業(株)、(株)菅原工務店、(株)鈴木久測量設計事務所、(株)鈴木測量事務所、スズキハイテック(株)、精英堂印刷(株)、(株)成和技術、ソック(株)、(株)大栄、(株)大商金山牧場、(株)ダイユー、(株)大和、(株)大和エンジニア、(有)高梨製作所、(株)タカハシ電工、(株)高良山形営業所、田宮印刷(株)、(株)田村測量設計事務所、(株)丹野、タンノ清掃興業(株)、(株)中幸製作所山形工場、鶴岡瓦斯(株)、鶴岡市農業協同組合、(株)テトラス、テルス(株)、天神森調剤薬局、(有)天童工業、(株)天童木工、(株)でん六、(有)東北環境総合サービス、東北クリーン開発(株)、(株)東北工材、東北工産、(有)東北紙商、(株)東北消防設備、東北シルク(株)、(株)トーホー、(株)トプコン山形、ドライブイン大沼、内外緑化(株)、(株)永田プロダクツ、(株)ニクニ白鷹、日新製薬(株)、日東ベスト(株)、沼田建設(株)、(株)畑山、ヒミヤ石油工機(株)、ファイン精密(株)、藤庭園、(株)フジミ、(株)双葉建設コンサルタント、文化清掃(有)、(株)北桜林業、(株)北都測量設計、本間利雄設計事務所、マイクロソリューション(株)、マックル(株)、(株)丸江製作所、(株)マルカ、(株)マルコウ環境、マルミツ産業(株)、ミクロンメタル(株)、(株)緑のふるさと公社、(株)ムラヤマ、村山生コン(株)、(株)メカニック、最上川土地改良区、(株)最上振興、(株)やいち、(有)安野測量事務所、山形いすゞ自動車(株)、山形ガス(株)、(株)山形銀行県庁支店、山形警備保障(株)、やまがた健康推進機構、山形県産業技術振興機構、山形県商工会連合会、山形県職業能力開発協会、山形県信用保証協会、山形県森林土木建設業協会、山形県測量設計業協会、山形県畜産協会、山形県土地改良建設協会、山形県土地改良事業団体連合会、山形酸素(株)米沢営業所、山形酸素(株)、山形信用金庫、(株)山形テレビ、山形電子(株)、山形東亜D K K(株)、山形トヨペット(株)、山形日紅(株)、山形富士電機(株)、(株)山形メイコー、山形緑十字(株)、(株)山口工務店、山新建装(株)、山田建設(株)、(株)ヤマトテック、(株)山南自動車、山和建设(株)、(株)ユアシス、米沢浜理薬品工業(株)、(株)ラムダ、ロータス山形(株)、ワイエム技研(株)、(株)渡部砂利工業所、(有)渡辺商店

(敬称略、五十音順)

ご協力ありがとうございました。

「育てる林業」、「使う林業」スタンスは50:50で

◆はじめに

林業経営学科では幅広い技術を習得するため、二年間で一、二四〇時間の実習時間を確保しています。後期に入ってから、間伐の集中実習や高性能林業機械実習など、実践的な実習の毎日が続いています。

◆県営林での間伐集中実習

間伐実習は、一年生の森林管理実習の中でも体系的に行う重要な実習の一つです。この実習は、間伐設計から伐採までの一連の間伐作業を実習するもので、前期に行った造林・育林の講義や毎木調査、測量などの基礎実習で学んだ成果をすべて活用することになります。

今回の実習場所は大蔵村の清水県営林で、五二年生のスギ人工林です。まずは、間伐予定林分を踏査し、地形や斜面方位、下層植生、指標植物など、地況や林況を把握します。次に、間伐区域を確定してコンパスによる周囲測量を行いました。校内のフィールドとは違い、広葉樹低木が繁茂する中で見通しを確保するのは一苦労です。また、標準地調査での

樹高測定は、超音波測高器（パタークス）を使用しました。密度の高い林分での樹高測定ですので、測定可能な位置を探すのには各班とも苦労しました。



コンパスによる測量

その後、すべての調査データをもとに間伐要否の判定と間伐率の算定、選木を行い、いよいよ伐採となります。間伐木は、雪害による幹折れや被圧木、曲がり木等さまざまな樹型級が存在します。さらに、かかり木しやすい間伐木が多くチルホルルの練習にもなり、難しいながらも得ら

れた実習効果は大きいようでした。

◆高性能林業機械の操作を学ぶ

高性能林業機械は、これからの林業の発展に欠かせない重要な機械です。八月中旬から九月中旬にかけて、高性能林業機械運転業務の特別教育が行われ、学生全員が修了証を取得しました。このうち、鶴岡市三瀬で行われた実技講習では、「ハーベスタ」、「フォワーダ」、「スウィングヤード」の操作を学びました。

学生の多くは卒業後、各地域の森林・林業の現場に入り、高性能林業機械を使った作業に従事することになります。安全で効率的な林業が求められている今、林業経営学科の学生には、高性能林業機械を使いこなす次世代のリーダーとしての期待が高まっています。

◆効果の高い実習とは

実習は、基礎的実習から実践的実習へと移行していくのが基本ですが、実践的実習は、講義と基礎的実習で得た知識と技術の上に成立していることを常に念頭に置く必要があります。そのため、効果的な実習を行うには、その実習に必要な、それまで習得した知識や技術について、実習の前にもう一度確認、整理して臨むことが必要となります。



高性能林業機械(ハーベスタ)の操作を学ぶ

◆スタンスは50:50で

林業経営学科の講義・実習は、植栽や下刈り、間伐などの造林・育林に関するもの、チェーンソーや高性能林業機械等を使った伐採・利用に関するものなどがあります。木材資源への期待がこれまで以上に高まる中で、「育てる林業」と「使う林業」、スタンスは50:50でなければなりません。これからの考えを大切に講義や実習を行っていきたいと思います。「森林の時間軸を考えた資源の循環利用の推進」これがまさしく林業経営学科の学生に期待されるリーダーとしての資質・能力なのです。

〔山形県立農林大学校〕

山形県青年林業士活動推進事業について

◆はじめに

今年度新たな制度のもと、山形県指導林業士・青年林業士が認定されたことが本誌で紹介されました。(森林やまがた二〇一六・九月号参照)

今回は、平成二十八年度に新たに認定された青年林業士の役割・活動について紹介します。

◆青年林業士の役割

山形県青年林業士の役割は大きく二つあります。一つは林業に就業しようとする方、いわゆる林業後継者になろうとする方をサポートすること、二つ目は農林大学校林業経営学科の実習等での指導や解説・助言並びに森林組合や林業関係会社へのインターンシップの際の指導・相談役などがあります。

◆山形県青年林業士活動推進事業

◇事業の目的

「やまがた森林ノミクス」を支える人材として、中核的な役割を担うことが期待される若手の林業従事者・経営者を「青年林業士」として認定し、「山形県青年林業士会」を新たに組織化、「山形県指導林業士会」

と連携を図りながら、①技術力を高める研修等の開催、②林業後継者づくりをサポートするため、農林大学校林業経営学科の実習等の指導・助言を行うことを目的とします。

◇事業の内容

農林大学校林業経営学科の実習やオープンキャンパスに青年林業士を派遣して、年齢的にも近い学生の兄弟的な存在として個別的助言・指導等を行います。また、青年林業士の技術の向上及び交流を図るための研修を開催します。事業主体は山形県青年林業士会です。

◆オープンキャンパスの支援

農林大学校オープンキャンパスの支援として、第二回・第三回オープンキャンパスにおいて実施しました。実施内容は、三名の青年林業士がキャンパスツアー(校内見学等)の際の高性能林業機械の説明や父母・生徒への林業経営学科の説明の際の森林組合業務の内容について解説・質疑応答等を行い、参加された方々の不安や疑問点の解消をしました。併せて青年林業士活動のPRも行っています。

◆青年林業士スキルアップ研修

平成二十八年九月十三〜十四日の日程で青年林業士スキルアップ研修(指導林業士・指導林家等研修との併催)を開催しました。この研修は



オープンキャンパスでの説明(高性能林業機械・森林組合業務説明)



林業経営学科生との意見交換会



新たに認定された青年林業士が、県内の指導林家・指導林業士等との交流と技術の向上を目的に行うもので、一日目は農林大学校林業経営学科の生徒との意見交換、スギコンテナ苗の生産現場見学、二日目は金山町の主要な森林・林業施策について、金山町森林組合の主要な取組みなどについて研修を行いました。

◆おわりに

新たな制度のもと認定された青年林業士が、今後技術の向上を図り、各地域で林業振興の中核的な役割を担っていきけるよう、当センターとしても各総合支庁と連携して支援していくとともに、青年林業士皆様の更なる技術・意識の向上に期待します。

〔森林研究研修センター〕

森の人紹介

町の人から森の人へ

飯豊町 舟山 政男さん



今回、森の人として紹介する舟山政男さんは、飯豊町手の子地区

出身、定年を迎えるまで会社員だったそうです。その後、第二の人生を歩むために木炭を生産してみようと考え、平成二十八年八月から白炭生産をするため新たな「白炭窯」を地元先の輩木炭生産者さん達の力を借りながら作りはじめました。

舟山さんの「白炭窯」は一回に七〜七俵半（おおよそ一〇〇〜一〇五kg）の炭が作れる大きさです。窯を囲う小屋は、自然光が多く入るよう

に屋根には透明な資材を用いており、暗さや狭さを感じられない様に工夫されています。

白炭は、年間を通して生



舟山さんの炭焼き小屋の屋根部分

産したいとのことでしたが、品質が良い原木を安定的に確保できるかが課題の一つだそうです。

舟山さんのお話では、もともと飯

豊町手の子地区は、田畑のほかに、木炭の生産を行っている農林家が多かったそうです。

近年まで父親の清一さんも木炭を生産しており、それを手伝ったことでもあるので、木炭を作る大変さも知っているが、高齢でありながら現在でも木炭を生産している人たちの技術や知識を若い人に伝えていくには、自分のように第二の人生を歩む人たちが中継しなくては…と考えているそうです。

若い人達に「木炭生産に参入してみよう」と考えてもらうためには昔ながらの方法を守っていくだけでなく改善・改良をしていくことも今後は大切だろうとのことでした。

今後、舟山さんのような特用林産物生産者が増えていくことに期待したいと思います。

〔置賜総合支庁森林整備課〕



舟山さんと新たな白炭窯

森の人紹介

森林施業プランナー紹介

出羽庄内森林組合

森林整備課 金子 崇さん

清野 友和さん



金子さん



清野さん

平成二十七年年度に庄内管内で新たに森林施業プランナーとなった方々を紹介いたします。今回は、出羽庄内森林組合のお二人に、プランナーとしての目標等についてお聞きしました。

①プランナーになったきっかけは？

・提案型集約化施業を進めるために必要であり、資格取得のために勉強することで自分の成長にもつながると考えたため。（金子）

・補助事業を活用して間伐等を実施するには集約化が必須であり、地域で収益性間伐を促進していくために必要と考えたため。（清野）

②プランナーとしての目標など
・素材の生産性について、コスト管理を徹底し効率的な施業を実施す

ることで、現在の二倍に向上させることを目標に取組みたい。

また、生産性を向上しても山を荒らすことの無いよう、現場作業員と意識を共有し、組合員の山を育てる施業を実施したい。（金子）

・森林所有者の要望や意向等を把握しながら、地域に根差した山づくりを実施していきたい。集約化により間伐等の施業を効率化し、森林所有者へ利益還元を行うことで、地域で必要とされるプランナーを目指したい。（清野）

③プランナーとして取組みたいこと
・地域の風土に合わせた施業を実施することで、森林所有者・地域・森林組合のそれぞれが良かったと思えるような施業を実施していきたい。（金子）

・山に興味の無い森林所有者が増えている中で、山に興味を持ってもらえるよう、多くの所有者等と話をしながら、地域の山づくりの提案をしていきたい。（清野）

地域に根差したプランナーを目指して、活動を行っているお二人の今後の活躍に期待します。

〔庄内総合支庁森林整備課〕

「もがみ薪ステーション」の取組みについて

平成二十六年から最上総合支庁で実施してきた「もがみ薪ステーション」の取組みについて紹介します。

◆取組みに至る背景

森林資源由来の木質バイオマスは、古くから薪炭として利用されてきましたが、やがて石油などの化石燃料に変化してきました。しかし、近年カーボンニュートラルなエネルギー源として、薪ストーブ等が改めて注目を集めています。山形県内では、県・市町村共に薪ストーブ導入における補助制度を設けており、薪ストーブの導入台数が増加しています。それに伴い燃料となる薪の需要も高まるなか、地域内での薪の調達、薪の生産供給体制が追付いておらず薪の原料となる木材の調達は、山林所有者でない限り、調達先の確保に苦労する状況となっています。

この取組みは、最上地域の現状を踏まえ、地域に適した森林資源の有効活用と森林所有者等による林業活動・地域経済の活性化を同時に促進することを目的に、モデル事業として実施してきたものです。これまで事

業の実施状況及び課題等について整理しながら取組みを行ってきました。

◆もがみ薪ステーションの概要

①森林所有者等が、森林整備により発生した間伐材等を金山町に設置した薪ステーションに出荷

②出荷量に応じて、金山町・真室川町のどちらかの商品券で材を買取り買取り単価（軽トラック一台当り）

- ・針葉樹…二、五〇〇円
- ・広葉樹…五、〇〇〇円

③集まった材は、薪用・木質チップ燃料用の原木として販売（買取額と同額で販売）

薪ステーションの運営等は、関係機関に委託して実施してきました。

◆実施結果

①平成二十六年

○期間…九月下旬～十二月上旬

○出荷者数…十三名（金山町民十一名、真室川町民七名、その他二名）

○出荷実績…針葉樹約五四m³、広葉樹約二六m³、計約八〇m³

○商品券…六五五枚（三二八千円）

○集荷材販売…全量販売

○研修会…チェンソー講習会二回

②平成二十七年

○期間…七月下旬～十二月下旬

○出荷者数…二四名（金山町民十六名、真室川町民七名、その他一名）

○出荷実績…針葉樹約九八m³、広葉樹約一四三m³、計約二四一m³

○商品券…二千枚（二、二〇〇千円）

○集荷材販売…全量販売

○研修会…チェンソー講習会等二回

◇今年度の実施状況

平成二十八年七月から平成二十八年一二月下旬までの期間を予定しており、これまで十五人の森林所有者から軽トラックで約二五〇台分（約二〇〇m³）の材の持込みがあり、昨年以上の材が集まる見込みです。

◆取組みの成果・課題等

これまでの取組みにより「自伐林業」の意識醸成が図られたことが最大の成果と考えています。

課題としては、出材する森林所有者の要望に応じた出材量の拡大、要望が寄せられた消費者ニーズに合った品質・規格の木材の販売、コストを意識しながら民間でも運営できる仕組みを確立すること等が課題と考えています。

◆今後の展開

今後は実施区域の拡大を視野に、民間主体の運営による事業の実施を

民間主体の運営による事業の実施を

側面から支援していく予定です。

〔最上総合支庁 森林整備課〕



薪ステーション運営状況



薪ステーション材搬入状況

豪快！繊細！『技』の競演！ 『第十二回東日本チェーンソーアート競技大会』を開催

九月十七日（土）、十八日（日）

の両日、山形県金山町の「遊学の森」で、第十一回東日本チェーンソーアート競技大会が開催されました。使用された丸太は根元曲がりしたスギ材で、建築部材として利用されないものです。これに新たな価値と魅力を生み出し、木の良さを見直してもらうことを目指して、毎年、金山町で開催しています。

大会には県内競技者の他、青森県や岐阜県、静岡県などから、十五名が集結し腕自慢を競いました。

最上地域緑の少年団による審査

今大会の目玉のひとつがメインカービングの作品（一日かけて仕上げた作品）を『最上地域緑の少年団』の児童が審査するという試みです。今年の作品テーマは「ストーリー」。競技者自身が付けたテーマを、どのように子供達へ伝えるかが、腕の見せどころです。大人とは異なる直感的な採点を予想しましたが、班ごとに議論を重ね、慎重な審査する子供たちの姿が印象的でした。

山形県競技者による三冠達成！

メインカービングの後は、三十分以内に即興彫り技術を競う「バトルカービング」の開始。再び、複数のチェーンソーを使い分け「切る」「削る」の作業を進めていきます。動物の形や毛並み等は細部に至るまで表現され、作品が出来上がると観客から大きな声援があがっていました。

さて、今年の審査結果ですが、メインカービング、バトルカービング共に佐藤雄三氏（山形県）が獲得。さらに、競技者同士の投票によって授与されるカーバーズ賞も、佐藤雄三氏が受賞し、一人の競技者が三冠達成という結果になりました。



バトルカービングの様子

〔最上総合支庁森林整備課〕

「おきたま森の感謝祭2016」を開催

今年も、九月十七日（土）十時半

〜十四時に高島町安久津にある「まほろば古の里歴史公園」を会場に、「小さな木 あなたが植える 大きな未来」をテーマに開催されました。

この日は、秋めいてきた気候の中、高島町が生んだスター「加藤マチャアキ」さんが率いるキッズダンスで華々しく感謝祭がスタートしました。

式典では、緑化功労者として上和田協和会と友水会が表彰されました。その他に、置賜地区の緑化運動・育樹運動 標語・ポスター原画コンクールの入賞者十七名が表彰されました。

また、会場では様々なイベントが開催されました。

森づくり活動では、企業や緑の少年団が中心となり、遊歩道のチップ敷きや植栽木への施肥が行われました。

ロープウインチを使った林業機械の実演では、子供たちは、普段触れることのない林業機械に興味津々でウインチを使って、一所懸命に丸太

を引き上げていました。

他にも、ネイチャーゲームや木工クラフト、ペレットストーブをはじめとする木質バイオマスの紹介、チェーンソーアートなど、森林に親しむイベントで時間いっぱいまで賑わいました。

最後になりましたが、開催にあたり、ご協力いただいた多くの関係者の皆さまに厚く御礼申し上げます。



森づくりリレー旗の引継ぎ

〔置賜総合支庁森林整備課〕

置賜地域の特用林産物生産者と供給者を増やせ!

「おきたま森の恵み起業塾」の取組み

◆はじめに

置賜地域は、山形県内でも「きのこ」「山菜」「木炭」等を多く生産している地域ですが、消費者ニーズがあっても生産者の高齢化や減少により安定した生産量を確保・供給できない状況になってきています。

しかし、その一方では、新たな栽培方法・生産技術の開発発によって、わらびの早期成圃化や栽培きこの生産性の向上が図れるようになってきました。

そこで置賜総合支庁では、地域の特用林産物生産者と生産供給量を増やすため、新規参入者の育成・確保と生産者組織の立上げや強化にむけて、既存の生産者等との連携を図りながら「おきたま森の恵み起業塾」を実施しているその内容を紹介します。

◆事業の概要

「おきたま森の恵み起業塾」は平成二十五年度から二十八年度までの四年間行いました。

研修する内容を大きく「きのこ」「山菜」「木炭」の三分野に区分し、就

業、生産性の向上、経営者として自立できる生産者の育成を目指しました。

◆研修の概要

平成二十五年度は、各分野の先駆的实践者や専門家等を講師として、基礎的な知識・技術の習得をするため、生産施設や加工・直売所等への現地研修や講座等を開催したところ一三八名が参加しました。

平成二六・二七年度の研修は「きのこ」「山菜」「木炭」三分野それぞれについて実際に生産・流通販売・加工を行っている事業者の協力を得て、より専門的な生産・加工技術、流通販売などの指導を現地及び室内で行い五〇名が受講しました。

研修参加者は、生産体制・栽培管理・加工方法や卸先などについて熱心に意見交換を行い、生産・販売のノウハウの取得だけでなく、新たな雇用確保に結び付けようと考えている方もみられました。

そして平成二十八年度は、市場・直売所へ出荷する場合の注意点やアドバイスなど販売に関する事柄に重

点を置いた内容とし、「山菜・きのこ」については「山菜・キノコの販売に係る注意点(食品制度や加工品の取扱について)」と題し置賜総合支庁農業技術普及課の是川邦子プロジェクト推進専門員から、「木炭」については「山形県における木炭等の販売流通の動き」を(株)長沢燃料商事 代表取締役 長澤文紀氏を講師として指導と情報提供を行っていただきました。

また、再生可能エネルギーの一つとして注目されている木質燃料(木炭、チップ、オガコ等)の利用方法と全国的な需要動向について、(一社)全国燃料協会 専務理事 杉本正二氏から情報提供をしていただきました。これは、県内で最も広葉樹林が多い置賜地域の特性を生かした特用林産物生産を考えるヒントになることを期待し企画したものです。

研修参加者からは「生産・栽培・加工技術だけでなく流通販売の実情表示制度や許認可などの注意点について知る機会がなかったので受講できて良かった」との意見がありました。

◆新たな生産者

四年間の研修参加者は延べ二二八人、その中から、新たに生産を始め

た三者が起業しました(きのこ一、木炭二)。

今後も研修参加者や企業者の活動をフォローしていくと共に専門的な生産・栽培技術・流通販売等の研修について地道な普及活動を行っていくことが重要だと考えられます。



平成27年度 山菜加工の研修状況

◆おわりに

「おきたま森の恵み起業塾」への参加をきっかけに、特用林産物の生産加工販売にたずさわる方が一人でも多く増えることを期待しています。

(置賜総合支庁森林整備課)

バイオマス資源熱利用実証事業について

◆はじめに

庄内総合支庁では、未利用間伐材等のバイオマス資源を有効活用するための実証事業を平成二十七年度から実施しています。

この事業は、遊佐町をモデルとして、未利用間伐材を施設園芸等で熱利用するとともに、材の代金を商品券で支払うことで地域経済の活性化を図る取組みです。事業の実施に当たっては、全体の管理運営や商品券の発行等を遊佐町商工会に委託し、出材等は遊佐町軽トラ林業倶楽部と連携して行っているところです。

◆取組みの状況

本事業の流れは、次のとおりです。
①森林所有者が間伐材等を協力農家へ搬出（協力農家は、町内のユリ・リュウココリーネ、山菜栽培農家）

②協力農家では、材を購入し栽培施設の補助暖房に活用（薪ストーブは、長時間燃焼できるように改良したものをレンタル）

③薪ストーブの燃焼時間・加温状況等について、栽培施設内にセンサーを設置し調査、分析

④間伐材等の代金について、商工会

から森林所有者に地域の商品券で支払い（軽トラック一台当たり二千円相当）

⑤森林所有者は、商品券が使用できる町内の店舗で商品等を購入

◆事業の実績等

平成二十七年度は、軽トラック九十一台分の未利用間伐材が利用されました。今まで放置されていた材が、自ら搬出することで有効活用につながるため、森林所有者からは好評を得ることができました。

しかし、材が多く搬出されると協力農家だけでは使用しきれないこと、薪ストーブの長時間燃焼が難しく農家の要望にこたえるのが難しい等、事業実施の課題も明らかになりました。

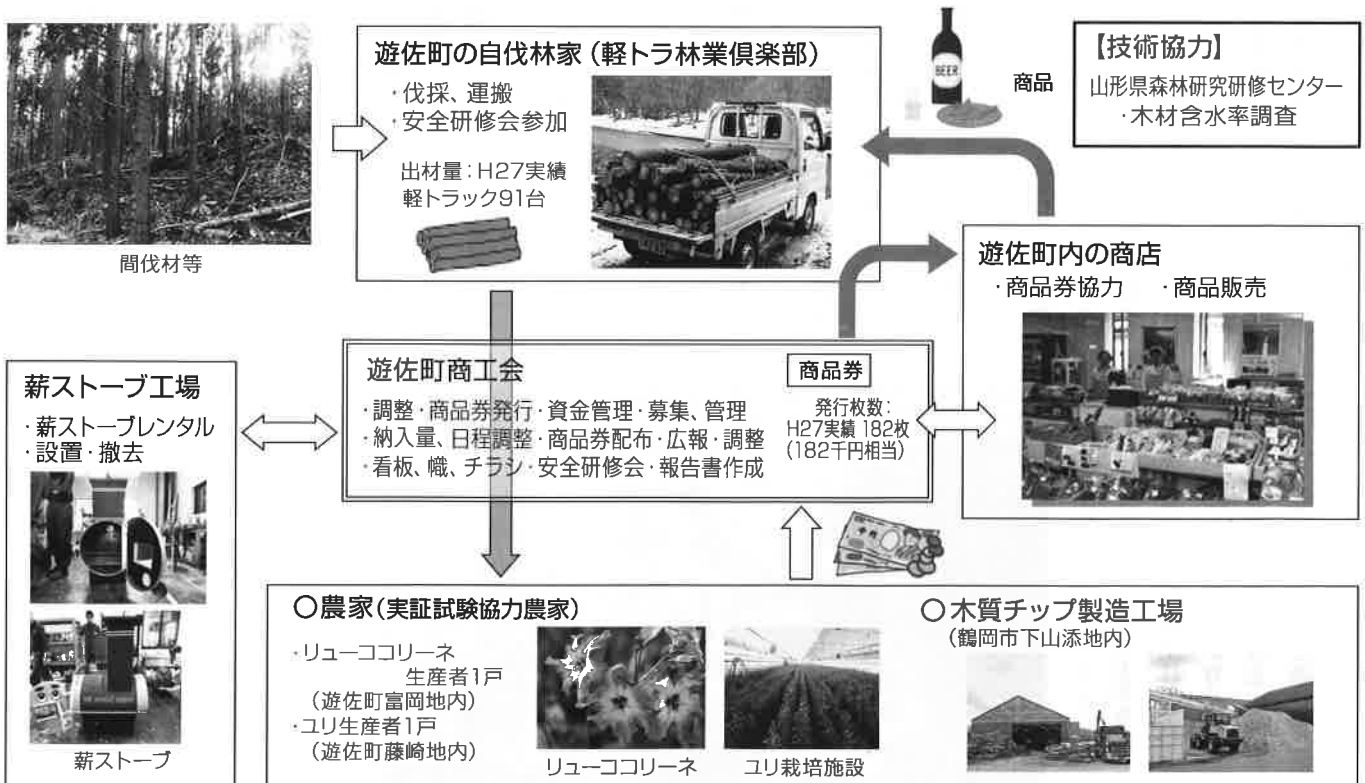
◆おわりに

今年度事業では、材の利用先に木質チップ製造工場を追加し需要を確保したほか、安定した長時間燃焼を目指し薪ストーブの改良にも取り組んでいます。

本事業の実施により、地域での未利用材の有効活用が促進されることを期待します。

〔庄内総合支庁森林整備課〕

平成28年度バイオマス資源熱利用実証事業イメージ図



温海町森林組合

「人工林の若返り」に向けた取組み

◆はじめに

鶴岡市温海地区は、人工林面積が八千百ヘクタール以上あり、そのうち十齢級以上の林分が八割超を占めるなど、資源が成熟しています。

その一方で、森林所有者の高齢化等により林業離れが進行し、再造林が進まないことから、若い森林が少ない偏った年齢構成となっています。

このままでは、継続的な資源の利用に支障をきたす恐れがあることから、温海町森林組合では地域の伝統野菜である「あつみかぶ」の栽培と再造林・保育を組み合わせた施策を行うことで、「人工林の若返り」を図る取組みを実施しています。

◆取組みの概要

この取組みは、森林所有者と森林組合が十年間の協定を結び、組合が人工林皆伐跡地で焼畑による「あつみかぶ」の栽培を行い、その販売利益で林地の下刈等の経費を確保し保育を実施するものです。これにより、林業の面からは造林地拵え作業の軽減や造林・保育経費の所有者負担分の財源確保による再造林の拡大、か

ぶ栽培の面からは、資源の循環利用等のイメージアップによるブランド化の推進や伝統農法の技術継承が図られることが期待されます。

今年度は、皆伐跡地二ヘクタールのうち、一ヘクタールで八月に焼き畑、かぶの植え付けを実施しました。今後は、十月以降に収穫及び伐採跡地全体での再造林を行うとともに、かぶの販売収益で来年度以降の保育作業を実施していく予定です。

◆おわりに

この取組みにより、再造林の拡大や年齢構成の平準化等が進み、継続的な森林資源の利用が促進されることを期待します。



上段…焼畑の実施状況
下段…かぶの栽培状況

〔庄内総合支庁森林整備課〕

緑の宝、暮らしに活かそう大事な資源

公益財団法人 山形県林業公社 理事長 細野 武司

〒990-2363 山形市大字長谷堂字馬場2265番

TEL 023-666-6348 FAX 023-689-9348 E-mail : y-ringyo@atlas.plala.or.jp

ホームページ : <http://business3.plala.or.jp/y-rkousy/>

土砂災害を防止・軽減するには

「治山施設」が必要です

森林を整備・利活用するには

「林道施設」が必要です

山形県森林土木建設業協会 会長 堀川 隆志

◇事務所：山形市あさひ町16-21 TEL(023)632-3893 FAX(023)632-5454

「やまがた緑環境税」活用事業
「森づくりセミナー」&活動報告会
開催のお知らせ

県では、「やまがた緑環境税」を活用した森づくり活動の成果を広く県民の方々に発信するため、左記日程により活動報告会を開催します。是非ご参加ください。(事前申込み不要・参加費無料)

◆開催内容

- ・森づくりに関する講演
- ・森づくり活動団体や市町村、企業などによる活動報告
- ・森づくり活動の成果展示

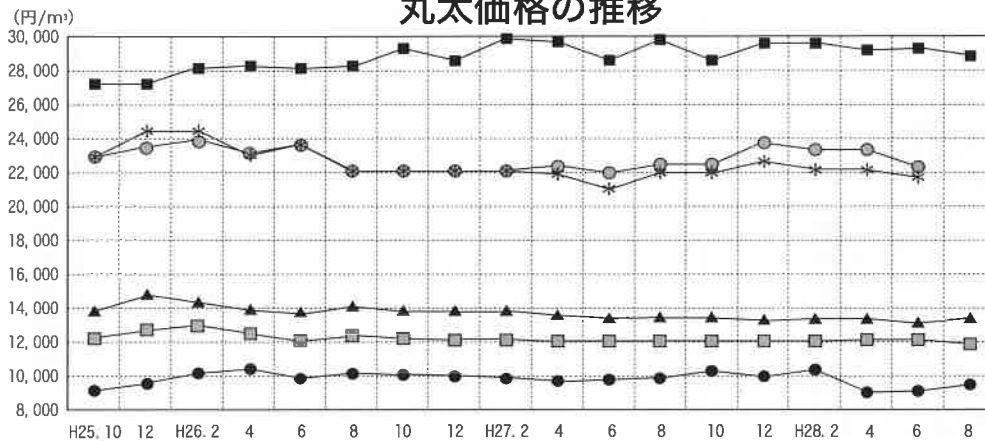
◆お問い合わせ

各総合支庁森林整備課
森づくり推進室まで
〔県みどり自然課〕

日時	平成28年11月26日(土) 11:00~16:00
場所	南陽市文化会館 小ホール
内容	<p>《基調講演》 講師：NPO法人やまぼうし自然学校(長野県) 代表理事 加々美 貴代 氏</p> <p>《代表発表》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みどり環境公募事業実施団体 4団体 ・みどり環境交付金事業実施市町村 1市町村 ・やまがた絆の森プロジェクト参画企業 1社

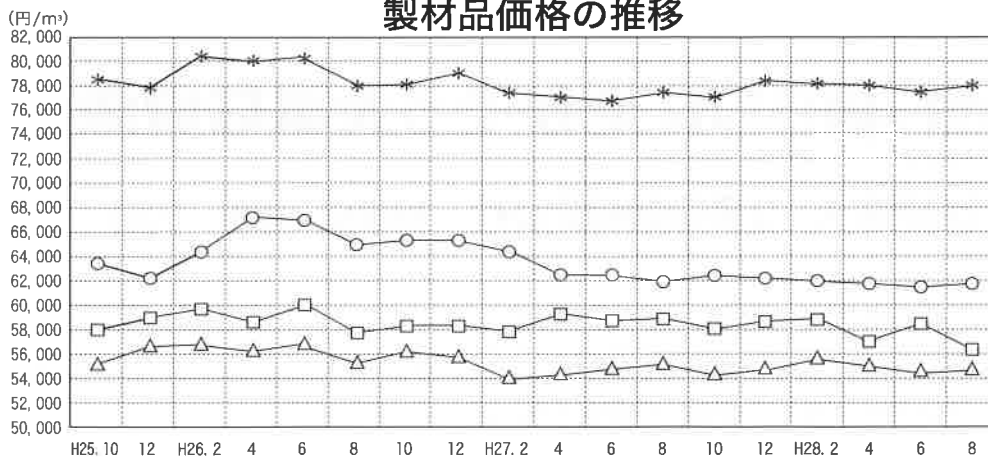
森林やまがた 一六六号

丸太価格の推移



- スギ小丸太
- スギ中丸太
- ▲ スギ大丸太
- ママツ大丸太
- * 北洋アカマツ中丸太
- 北洋カラ中丸太

製材品価格の推移



- スギ正角(柱)
- △ スギ正角(母屋)
- スギ正割
- * ママツ平角

「実践的リスクアセスメント導入のための集団指導会」を開催します!

今回の指導会ではそれぞれの作業特質に配慮した取り組みやすい簡易版の学習を行います。

リスクアセスメントで
災害ゼロ!!



平成28年11月 8日(火)【木材製造業版】 酒田玉姫殿

(酒田市北新橋一丁目19-7)

11月18日(金)【林業版】

ホテルメトロポリタン山形

(山形市香澄町一丁目1-1-1)

11月25日(金)【木材製造業版】

ホテルメトロポリタン山形

(山形市香澄町一丁目1-1-1)

お問い合わせは 林業・木材製造業労働災害防止協会山形県支部

TEL:023-666-4810 FAX:023-666-4811

平成二十八年十一月一日発行(隔月発行)
編集・発行 山形市松栄一丁目五番四一号

山形県森林協会

監修

山形県農林水産部
印刷所 渡辺印刷

定価 二八八円